

電力各社で相互評価する可搬型設備を用いた注水訓練の実施について

2019年10月31日

電力各社は、緊急時における現場の対応能力向上を目的に、各社が実施する訓練を相互評価(注1)し、この評価結果を踏まえて更なる改善に繋げる取り組みを実施しています。

本日、当社はこの評価を受ける訓練を実施したためお知らせします。なお、この評価には原子力規制庁も参画しています。

今回は、緊急時即応班(ERF:Emergency Response Force)(注2)等の要員が、現場で可搬型注水設備等を設置した後、水源から水を汲み上げて送水する訓練をおこないました。この訓練について、電力各社および原子力規制庁が評価をおこない、評価結果については、今後、当社に示される予定です。

当社は、この評価結果を踏まえて更なる改善を図り、引き続き緊急時の対応能力の強化を図って参ります。



訓練の評価を受けている様子

注1 電力各社が実施する訓練を相互評価する取り組みは、原子力規制庁が電力各社単独での防災訓練では対応能力の向上に繋がっていないという課題を抽出したことをきっかけとして、事故の状況に応じた対応能力向上を目的に全電力で2017年から実施しており、今回、浜岡で初めて相互評価を受ける訓練を実施しました。

注2 緊急時即応班(ERF)とは、事故発生時に速やかに初動対応をおこなうスペシャリストチームのことで、4号機再稼働以降は、24時間365日発電所敷地内に常駐する予定です。

以上